

岡崎市議会議長 様

支出番号

11

会派名
代表者名

自民清風会
加藤 義幸



下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動旅行報告書

令和元年 12月 27日提出

活動年月日	令和元年 8月 1日 (木) ~8月 2日 (金)	
氏名	野本 篤	
用務先 及び 内容	1 8月1日	用務先 滋賀県 大津市
		内容 令和元年度 第1回市町村議会議員特別セミナー
	2 8月2日	用務先 滋賀県 大津市
		内容 令和元年度 第1回市町村議会議員特別セミナー
	3	用務先
		内容
	4	用務先
		内容
備考		



政務活動旅行報告書

報告者 野本 篤

セミナー概要

研修名：令和元年度 第1回 市町村議会議員セミナー

日 程：2019年8月1日（木）～8月2日（金）

場 所：全国市町村国際文化研修所

滋賀県大津市唐崎2-13-1



セミナーのねらい

日々めまぐるしく変わりゆく国内外の情勢の中で、地方議会の議員には、様々な行政課題について学び、施策を提案していくことが求められる。

今回の研修で、様々な分野の第一線で活躍の方々を講師とし、地域を元気にするまちづくりについて多角的に考える。

セミナー概要

講義①滋賀県の挑戦 ～みんなでつくろう！健康しが～

- 講師 滋賀県知事 三日月大造 氏
- 講義②人生100年時代とごちゃまぜ社会
講師 社会福祉法人佛子園 理事長 雄谷吉成 氏
- 講義③スポーツツーリズムを活用したまちづくり
～スポーツがもたらす地域活性化の効果～
講師 同志社大学スポーツ健康科学部 [REDACTED] 氏
- 講義④関係人口の作り方 ～ぼくらは地方で幸せを見つける～
講師 月刊「ソトコト」 [REDACTED] 氏

セミナー内容と考察

- 講義①滋賀県の挑戦 ～みんなでつくろう！健康しが～
講師 滋賀県知事 三日月大造 氏

- ・ 3つの問題意識として
 - ①豊かさとは何か？幸せとは何か？
 - ②今の生活は持続可能か？
 - ③誰かを犠牲にしてないか？
→「今だけ、モノだけ、自分だけではない」新しい豊かさを追求する。
- ・ 新しい豊かさとは？
人の健康（人権と多様性、生きる力、学ぶ力）
 - ① 要因を分析し、ビッグデータの活用、大学との連携による健康寿命の延伸に取り組む。
 - ② 地元の名品でつくる滋賀めしメニューの開発、企業や大学とのコラボレーションによる食べる健康づくり。
 - ③ 滋賀県ならではの感動体験をもとにした教育。
 - ④ WMG(World masters games)関西の誘致などのスポーツツーリズム。
 - ⑤ 幻の安土城復元プロジェクト、国宝彦根城ほか1,300の遺跡を活用した歴史教育の推進。

社会の健康（共生社会、つくる・ひろげる力）

- ① 大河ドラマや連続テレビ小説をきっかけにした大型観光キャンペーン。
- ② MaaS(Mobility as a Service)*1の整備による地域公共交通の推進。
*1 電車やバス、飛行機など複数の交通手段を乗り継いで移動する際、それらを跨いだ移動ルートは検索可能となったが、予約や運賃の支払いは、各事業者に対

して個別に行う必要がある。

このような仕組みを、手元のスマートフォン等から検索～予約～支払を一度に行えるように改めて、ユーザーの利便性を大幅に高めたり、また移動の効率化により都市部での交通渋滞や環境問題、地方での交通弱者対策などの問題の解決に役立てようとする考え方の上に立っているサービス。

- ③ 実証実験のフィールド、オープンイノベーションによる次世代成長産業の推進。

自然の健康（生物多様性、守る力・活かす力）

- ① 琵琶湖の源流である山の健康を守ることが必要である。
- ② 森林環境譲与税は都市部と山間部のコミュニティに使っていききたい。
- ③ 琵琶湖を利用した企画

・「健康しが」に込めた思い

人と人との「支え合い」

いろいろな生業、糧を得ていく、伸ばしていく「活力」

その人その人の「自分らしさ」を大切にする

・考察として

中山間地の保全、健康施策、歴史観光など、本市の取り組みと類似するところがある。様々な施策の必要性は賛同するものである。また、こうした課題に対して首長みずから率先して取り組むことの重要性を感じた。

講義②人生100年時代とごちゃまぜ社会

講師 社会福祉法人佛子園 理事長 雄谷吉成 氏

・寿命の延伸と共に、高齢者の日々の居場所はどこなのか？

男性 ①図書館 ②見つからない ③公園

女性 ①図書館 ②スポーツクラブ ③友人との集まり

・男性の退職後に居場所がないことが問題である。

中高年のひきこもり62万人→70%が男性である。

埋没人材が多くある現状である。

・昨今の福祉は、障がい者や高齢者などそれぞれを分離してしまった。

昔ながらの「ごちゃまぜ」という仕組みが新たな反応を生んだ。
それぞれが役割を持つことで機能となった。
人と人は交流することで元気になっていく。

・考察として

講師の施設運営の経験からなる事例や考え方の説明を聞くことができた。人は年齢や性別、障がいのあるなしにかかわらず、必要とされるということが充実した人生を送るにあたり不可欠であるということを再認識した。

人口減少による人手不足、認知症の予防といった施策の基本となる考え方になると理解している。

講義③スポーツツーリズムを活用したまちづくり ～スポーツがもたらす地域活性化の効果～

講師 同志社大学スポーツ健康科学部 [REDACTED] 氏

・スポーツマーケティング → 組織運営や商品開発によるフィードバックを期待した取り組み。

・スポーツ消費者 → スポーツから便益を得る購買者や参加者、観戦者や支援者であり、スポーツマーケティングの対象者となる。

・健康志向がもたらすスポーツへの再社会化

ジョギングやマラソンの愛好家は 2,000 万人。

東京マラソンは定員 27,000 人のところ 33,000 人が応募した。

ランニングブームの市場拡大 → シューズやウェア、スマートウォッチなどおしゃれになり、購買欲の高まりがある。

ランニングステーション → 都市では、ロッカーやシャワーなどランニングを支える拠点としてのサービスステーションが新たにオープン。

都市型の市民マラソンの開催が相次いでいる

観光や消費、活性化につながる → 独自性あるコース設定が必要。

スポーツイベントの開催には自治体の負担が不可欠となるので、経済波及効果をしっかりと考えなくてはならない。

奈良マラソン 2019 の経済波及効果

日帰り 平均 15,000 円。泊まり 平均 49,000 円。

開催経費 3億円、経済総合波及効果 11億円、3.8倍の効果。

- ・スポーツツーリスト → する人、観る人、支えるひと。
日常生活圏外の場所に一時的に滞在してスポーツに関わる活動をする人。

- ・スポーツツーリストの意思決定
→ スポーツをするためのデスティネーション（目的地）は何か？
選ぶ理由として、自然・インフラ・施設サービス・アクセスが因となる。
スポーツイベントの参加を契機に愛着をもち、再度旅行での訪問へ、相乗効果の期待がある。

- ・モノの消費からコトの体験へ → 経験の価値が高い。

- ・スポーツツーリズムがもたらす地域活性化の効果
 - ①知名度やイメージの向上
 - ②イベントによる経済波及効果
 - ③施設の建設や改修により、地域のインフラストラクチャーの整備
 - ④愛郷心や愛着の醸成

- ・考察として
スポーツを通じたまちづくりとしてのスポーツツーリズムの考え方や有効性がよく理解できた。今後、ストリートスポーツなどの将来のオリンピック競技を視野に入れた投資的な感覚でまちづくりを検討することが必要と考える。
また、本市の歴史まちづくりと連携した、武道ツーリズムの取り組みも有効と考える。

講義④関係人口の作り方 ～ぼくらは地方で幸せを見つける～
講師 月刊「ソトコト」氏

- ・関係人口の定義 → 観光客以上、移住未満の人。

- ・観光案内所よりも関係案内所が必要である。

- ・まちとの関係性を大事にする若者を育てる。

地域を編集したいと思う若者が地方で新たな価値観を生み出す。
観光や移住ではない第三のイノベーター。

・ 島根県での取り組み。

移住民を地域で奪い合うのでは意味がない。

移住をしてもつまらないから集まらない。

都市に住みその地方のまちのことを考えてくれる人を増やす。

地域に関わりたいと思う若者はいる。

・ ヨソ事、ヒト事ではない。

そのまちの未来に繋がることなら若い世代はがんばれる。

知り合ったことによる愛着が生まれる。

・ 関係人口をつくり、増やす3つの構成要素

① 関係案内所を設ける。

② 未来をつくっているという手応え。

③ 「自分ごと」として楽しんでもらう。

・ 考察として

本市の中でも衰退が危惧されている中山間地の振興において、この関係人口の活用は有効と考えられる。これまでとは違う若い発想によって新たな中山間地の魅力発掘に繋がると考える。既存の住民からはハレーションも起きると想像される。地元も危機感を持ち、協力体制や必要性が高まってから、行政においてリードしていくことを期待する。